

於東京千八百七十五年六月廿七日

呈

紙幣頒得能良双閣下

第一國立銀行ノ支店ヲ上海ニ設テ銀行營業ヲ施行
セントスルノ義ニ付洪澤氏ヨリノ意見書逐一審考
セシ處同子意見書ノ初ニ同子ノ目的ヲ施行スルニ
付テハ是非共興張々ヘシト信セシ所ノモノニ條ア
リ即テ

第一 日本貨幣ヲシテ上海ニ流通セシムル

第二 日本支那兩國間ノ商業ヲシテ便利ナラシム
ル

第二 抑テ支那人言ニ及ハス東洋諸港當時墨西哥
流通スルノ地ニ於テ更ニ日本貨幣ヲ流通セシメント

寫
記
録
課

啓

冀望スルハ毫毛疑ヲ容レサル所ニシテ又支那日本
兩國ニ於テ營業スル所ノ高人へ至當ノ便利ヲ付與
セント欲スルモ亦タ疑フヘキニアラス斯ク主意ノ
善良ナルハ勿論ナルヲ以テ若シ上海ニ於テ銀行ノ
設立ヲシテ專ラ主意ノ善良ナルヲ主トシ其他ノ問ハ
サル所ハ其結果ヲ見ルト難キニ非ラサルハシ
然レモ此ノ議論ハ斯ノ如ク容易ナル法ヲ以テ輕々
處置ス可ラス第一希望スル所ノニテ條ノ情態ヲ觀
ルニ元ヨリ區別アリ今實際ニ就テ或ハ言ハニ日本
貨幣ハ支那ニ流通セズ故ニ日本貨幣ヲシテ支那ニ
流通セシムルハ一ノ目的ニシテ其目的ヲ達スルハ
之ヲ今日ニ望ム可ラスニテ全ク將來ニ在ルナリト
日本支那兩國間ノ商業ヲ便利ニスルノ一條ニ付テ

ハ事情全ク前者ト異ニシテ數年來今日ニ至ルマテ
兩國商業ノ便利ハ相應ニ関ケタリ故ニ此條ヲ論ス
ル所ハ已ニ其目的ヲ達セシト云ベシ
又日本貨幣ヲシテ支那ニ流通セシメントスルニテ
論セニニ何ノ故アリテ第一國立銀行ハ其本分ノ定
規ニ全ク關係セサルノ事業ニ関スルカヲ明言スヘ
シ加之第一國立銀行ノ支店ヲ設立セントスルニ付
其目的ヲ達スルニハ如何ナル良法義畧ヲ用ヒテ之
ヲ助ルカノ緊要ナル一疑問ヲ發セサルヲ得ス
此書ノ主意トスル所ハ人ノ注意ヲ得ニ為メ卓出シ
タル實事ヲ擧ケ其實事ヨリ發見シタル道理ヲ以テ
以上論シ來リシ所ノ疑問ヲ明白ニシ及ヒ澁澤氏ノ
目論見ヲ忠告セニ為メ熟考シテ聊鄙見ヲ陳述スル

大
義
省

モノナリ

第三 故ニ余ハ先ツ日本支那ノ商業ヲ便利ニセシ
為メ銀行ヲ設立セントスルノ議論ヲ議セント欲ス
如何トナレハ兩國商業上相應ノ便利ハ當時已ニ行
ハルニ又新タニ便利ヲ増加セントスレハ銀行ハ
非常ノ損失ヲ受クヘキヲ顯然タル上ハ上海ニ於テ
銀行ノ支店ヲ設立セシ為メ主トスル處ノ第一論ハ
將ニ地ニ落チントス

如此キ議論ヲ辨スルニ當テハ其引用スル所ノ諸意
ヲ了解スルヲ以テ先務トス 洪澤氏意見書初頭ニ曰
日本支那ノ商業ヲ便利ニスヘキト此屢々引用サ
ルト雖モ此一語ノニテハ了解シ難キ者アリ故
ニ吾輩ハ差當リ此一語ノ大旨意ハ何レニ在ルカラ

知ラニトス今此一語ヲ讀過スルキハ日本支那高
業上ニ付必要ニシテ缺ク可ラサルノ便利ハ未タ聞
ケスト云フカ如シ然レモ洪澤氏ハ如何ナル便利ヲ
付與セントスルカノ意味ヲ解キ示サ、ルナリ
同子意見書ノ全文ヲ見ルニ及テ漸ク此一語ノ旨意
ヲ解スヘキ如キモノヲ察見シタリ即

第一 第一條四節ニ曰上海ニ於テ為替營業若シ都
合克キキハ後來トヲ擴充シテ「香港」カント「」及其他
ノ各地ニ施行スベシト

第二 第四條一節ニ曰大藏省ヨリ借用スル所ノ資
本金ハ慥ナル抵當物ヲ得テ之ヲ貸附ヘシ又橫濱神
戶ノ兩港ニ於テ「ドル」ラルト「テ」ルトノ交換ニ使用
スヘシト

第三 第五條一節ニ曰「此銀行ハ歐羅巴各銀行ニテ取扱フ如キ同様ノ方法ヲ以上海ニ於テ仕拂フヘキノ紙幣ヲ發行スヘシト

第四 第六條一節ニ曰「若シ内外人ノ望ニ依リ此支店ニ於テ當座預リ及定期預リノ事務ヲ取扱フヘシト

右ノ數々條及其外一ニノ辨ヨリニテ略々日本支那兩國間ノ商業ヲ便利ニスヘシト云一語ノ大意ヲ了

解シ其ハ紙幣ヲ發行シ及預金ヲ受取り以テ上海ニ於テ地方銀行ヲ始メニトスルノ企テアルヲ知ルヲ得タリ

然レモ余ハ此一條乃チ地方銀行ノ付深ク茲ニ論述スルヲ要セス如何トナレハ銀行ハ再々紙幣寮ニ請願シ

諒察ノ許可ヲ得ルニアラサレハ如此キ事務ヲ取扱フ可ラサレハナリ惟茲ニ一言スヘキハ目今地方銀行ノ事務ヲ取扱ハニ為ノ外國何レノ地ニ於テモ地方銀行ノ事務ヲ扱ク為ヨリ國立銀行ノ設立ヲ許可スルハ日本政府ノ為メニ深ク取ラサル所ニミテ決シテ之ヲ良策ト云可カラズトノ愚考ヲ陳スルヲ以テ足レリトス

既ニ漢澤氏モ自其ノ意見ニ付自ラ掛念スル所アルヤ明白ナリ同子ノ言フ所ヲ以テ之ヲ見ルヘシ

第五條二節ニ曰「試驗年限中ハ紙幣發行ノ總額拾五万圓ニ過クヘカラズト

第六條二節ニ曰「預金ノ高ハ資本金額ニ過クヘカラズト

大 省

夫レ成可文夥多ノ貨幣ヲ運用スルハ銀行大目的ノ
一ニシテ世界万国皆然ラサルハナシ然ルニ洪澤氏
獨世間ニ對シ其義務ヲ制限セントスルハ則天子自
ラ其危難ナキヲ保スル能ハスニテ諺ニ所謂寸前ハ
即暗ナルモノ彼レノ胸中ニ存在スルヤ明ヤタリ
第五 今上海ニ於テ地方銀行設立ノ議ヲ止メテ將
サニ外國商業ノ論即二國間ノ商業ヲ便利ニセシ為
メ銀行ニ関スルノ議論ニ遷ラントス此疑問ハ十分
ニ討論ニ殘ス所ナキヲ以テ至要トス
抑兩國ノ商業日本ト支那ノ如キハ一國ノ商品ヲ取
テ他ノ一國ニ運搬スルノ業ニシテ假令ハ甲ハ日本
ニ於テ日本ノ貨物ヲ買ヒ之ヲ上海ニ送り乙ヲ乙ニ
之ヲ賣捌カシムルキハ甲ハ日本ニ於テ其代價ヲ拂

フヘシ而シテ若シ茲ニ一ノ銀行ナシトセバ甲ハ再
ヒ其代價ヲ得ルニハ數十日ヲ費ヤサシムルヲ得ス特
リ此ノミナラス乙ハ上海ニ於テ右ノ貨物ヲ賣捌キ
シ片ニ其代價ヲ送回スルノ煩勞ト費用ヲ免ル、能
ハサルナリ事情如此ナル片ハ乃チ之ヲ商業上不便
アリト云フヘシ然レモ如シ茲ニ銀行ノ起ルアラハ
事情忽一變シテ而シテ甲ハ遲滞ナク又ハヨキ割合
ニテ已レ、代價ヲ得ヘシ此レ他ニ銀行ハ次ノ二
法ヲ以テ此ノ人ヲ助ク即彼レノ商業ヲ便利ニスル
ヲ以テナリ

第一法若シ乙上海ニ於テ其貨物ヲ賣捌キシ片ハ
日本ニ於テ甲ニ拵フヘキ為替切手ヲ銀行ニ就テ
買フテ得ヘシ故ニ乙ヲシテ貨物ヲ運搬スルノ

大 歳 省

煩勞ト費用ヲ省カシム

第二法若シ甲日本ニ於テ其貨物ヲ船積ニスルキ
已レノ為替切手ヲ銀行へ賣ルイテ得ヘシ而シテ
乙ハ其貨物ヲ賣捌キ甲ノ為ノニ為替切手ノ仕拂
ヲ上海ノ銀行ニ為スヘシ如此シテ甲ハ遲滞ナク
直ニ已レノ代價ヲ得ヘキナリ

此レ等ノ便利ハ則特リ銀行ノ勢カヲ以テ商人ニ付
與ニ得ルモノトス是故ニ渋澤氏カ二國ノ商業ヲ便
利ニスルヲ論スルニ當テハ宜ヒク目今行ハル、所
ノ便利ハ十分ナラサルカ故ニ一ハ前ヨリモ許多ノ
商人手形ヲ買ヒ又ハヨキ割合ニテ之ヲ買入レシメ其
一ハ前ヨリモ許多ノ為替手形ヲ賣リ又ハヨキ割合
ニテ之ヲ振出スノ二者ヲ以テ商業ノ便利ヲ増加ス

ト謂ハサルヘカラス

既ニ上ニモ云フ如ク目今行ハル、所ノ便利ハ不十
分ナルヲ以テ須ク之ヲ増加スヘシトノ渋澤氏ノ意
見ハ全ク之ヲ一ノ誤謬ト見做サ、ル可カラス

抑目今兩國間ニ行ハル、所ノ便利ハ豈十分ナラサ
ランヤ實ニ其多キニ苦ムナリ故ニ上海トノ銀行營
業上ニ於テハ殆ント其利潤ヲ見サル程ノ競争ヲ各
銀行ノ間ニ現出シドエイツウニ銀行ノ如キモ二三年
ノ實驗ヲ經テ目下既ニ橫濱上海共其營業ヲ廢止ス
ルモノハ其損失アル、ニニアラサルナク往々其平
均ノ利潤ヲ得サルヲ以テナリ斯ク許多ノ銀行アリ
テ而シテ其營業ニ使用スル所ノ資本モ亦多キニ過
キタリ故ニ其結果ハ則營業ノ利潤ヲシテ殆ント烏

有ニ歸セシムル程ノ低度ニ減少セリ
余ハ日本ト上海ノ間ニ行ハル、所ノ商業ニ付テハ
頗ル其形情ヲ熟知ス其商業タルヤ重ニ日本ヨリ昆
布麩ヲ彼ノ地ニ輸入シ上海ヨリ生綿ヲ以テ日本へ
向テ輸出スルニ在リ而シテ此等ノ商事ヲ営ムモノ
多クハ支那人ナリ此支那商人中實直ニシテ信用ア
ルモノハ或ハ抵當物ナクシテ已レノ為替切手ヲ銀
行ニ賣ルトアレ氏多クハ上海ヨリ輸出スルカ或ハ
上海ノ輸入スル所ノ高品ヲ以テ抵當トシ已レノ為
替手形ヲ銀行へ賣ルナリ然レ氏支那商人中世間ニ
信用ナキモノハ常ニ為替ヲ振出スナク自己ノ商
品ヲ輸出シ其受託者ハ銀行ノ為替切手ヲ以テ其代
價ヲ返送シ或ハ他ノ貨物ヲ返送シテ其代價ヲ償フ

ヲ以テ常トス
此外尚歐羅巴亞米利加商店ニ於テ僅々ノ取引アル
モ大概一ノ抵當品ナクシテ銀行へ各自ノ切手ヲ賣
リ十日目拂ノ為替ヲ組ミテ以テ銘々ノ勘定ヲ調理
ス
然リ而シテ此等ヲ總括スルモ其商業ノ實ニ僅少ナ
ルト郵船發着毎ニ横濱各銀行ニ於テ取扱フ所ハ高
人手形ヲ買求メタルモノ三ツ銀行ヨリ振出シタル
銀行手形五六上海ニ於テハ商人手形ノ買求メタル
モノ二ツ銀行ヨリ振出シタル銀行手形三四ニ過キ
ス此等僅々ノ營業猶増加スルヲ得サルハ云ハスニ
テ明ナリ
何人ヲ問ハス善良ノ聞ヘアル商人ニシテ相當ノ抵

當物ヲ所持スルモノハ自身ノ手形ヲ以テ兩港ニテ
四軒ノ銀行ヨリ貨幣ヲ得ヘク又何人ニテモ送回ス
ヘキ金銀アル者ハ自由ニ四軒ノ銀行ヲ撰テ自身ニ
取リテ最都合ヨキ割合ニテ為替ヲ振出スヲ得ヘシ
然則目今未タ行ハレサル所ニシテ渋澤氏カ新タニ
付與セント欲スル所ノ便利トハ抑何事ナルヤ思フ
ニ同子ハ日本支那ノ間ニ為替銀行ヲ開ク片ハ日本
商人ヲ誘テ以テ兩國ノ交易ヲ盛大ニスルヲ得從テ
日本商人ノ營業ニ関シ暗ニ專賣ノ利ヲ射ルノ目的
ナラニ若シ同子ノ目的ヲシテ斯ク吾輩カ憶測スル
所ノ如クナラシメハ其誤謬タル亦甚ト云ヘシ
全體日本支那ノ間ニ行ハル、商業ノ盛衰ハ彼我物
品ノ高低ニ依リ利潤ノ多少ニ關係スルモノナリ若

シ此利潤ヲシテ多カラシメハ商業ノ日ニ盛大ナル
ハ疑ヲ容レサルナリ然ルニ今ヤ此利潤多カラサル
ノミナラス其僅少ナル實ニ甚シキヲ以テ若シ此商
業ヲシテ益増加セシムル片ハ其利潤恐ラハ全ク消
滅スルニ至ラントス且將來緊要ナル商業増加スト
想像スヘキ謂ハレナキニ於テ乎

然ラハ則今日渋澤氏カ為レ得ル所ノモノハ僅ニ二
三ノ商業ノ為メ各銀行ノ間ニ存在スル競争ヲ分與
スルニ過キス一々此競争ニ関スル片ハ渋澤氏必
其損失ヲ招クヘシ且渋澤氏ハ如何ナル方法ヲ以テ
商人手形ヲ買ヒ得ルヤ差向キ此一條ヲ考ントス
第一 渋澤氏及其代理タカモノ十分ノ練磨經驗ナ
クシテ如何ナル手術ヲ以テ譲ヒ、信用スヘシ其ハ

信任スヘカラス某氏ヨリハ抵當物ヲ取ルヘシ某商人ヨリハ抵當品ナクシテ糸形ヲ買フヘシト鑑定ス可キヤ渋澤氏カ日本ニテ自身ノ營業上商人ニ與フル所ノ信用ハ實ニ寥々タル者ナリ若シ上滄ニ於テ銀行營業ヲ為サニハ須ク十分ノ信用ナカルヘカラス然ラレハ決シテ商人手形ヲ買ヒ得ル克ハサルナリ

第二 若シ同子他銀行ト同等ノ割ヲ以テ証券ヲ買ハニトヲ欲セハ事務無カル可シ假令事務有リ氏恐クハ不安全ノ者ナラニ上等ノ商人ハ証券ヲ彼レニ賣ルヲ欲セスノ是近取引キセル銀行方ニ賣ラニトヲ望ミ唯第三第四等ノ若他所ニ行ク氏信任セラレヌ故來リテ賣ラニトヲ望ム可シ故ニ可信ノ証券ヲ

得ニト欲セハ他銀行ヨリハ善キ價ヲ以テ買ハサルヲ得ス此割合ノ差ハ以テ其銀行望ム處ノ利得分ヲ失フ可シ

為替証券ヲ賣ルモ亦同シク數年ノ間ハ他ノ銀行同様ノ信任ヲ得難シ故ニ他銀行ト同シ割合ニテ振出サニト欲セハ事務無ル可シ為換取組人ハ創立以來最長久ノ銀行ヨリ為換ヲ振出ス可シ故ニ事務ヲ扱ハニト欲セハ他ヨリ少ナル打歩ヲ以テセサルヲ得ス此割合ノ差ハ以テ其銀行望ム處ノ利得分ヲ殆ト全ク失フヘシ

第六 其他此銀行事務ヲ扱ハニカ為ノ渋澤氏ノ困難ス可キノ不利ヲ指數セヌト甚タ易シ併シ渋澤氏此迄成立セサル商業ヲ當マニトシ企ツル氏其便益

大
表
省

ル處ヲ以テスルニ二拾種以上ノ通用有リシエーノ
重量種々ニシテ純雜ノ度モ亦殊ナリ一「シエー」十丁
銀ノ重有リテ純銀九八ニナル有リ他ハ一「シエー」二
十五丁銀ノ重有リテ純銀九一六ノ者有リ又唯二丁
銀ノ重ニテ純銀九十耳ノ者有リ各箇ノ「シエー」銀ハ
製造地方ノ名ト製造人ノ名トヲ其上ニ印セリ此通
用貨幣ノ不便ニ重ナリ

第一諸拂ニ於テ各「シエー」ノ價直ヲ精算セサルヲ
得サルヲ以テ一大困難ヲ生ス

第二 各「シエー」ノ純雜ノ正シキ度ヲ知ルテ難シ
若モ受取人其金ノ形負ノ外別ニ見留ム可キ者無ク
ハ其價ヲ知ルテ殆ト難シ然レモ支那人分拆所ニ於テ
其上ニ重量ト純數ヲ書シ正真ノ物ト為スヲ以テ此

困難ハ大ニ減少セリ此役所ニ於テ各「シエー」上
ニ重量何々純銀何々ト記セモ盡ク信任ス可キ者ニ
非ス之ヲ記スルニ於テ官私ノ欺罔甚タ多シ故ニ其
損失ヲ禦ク為メ上海ニ在ル他國銀行ハ「エム」プラド
「ド」称呼スル貴重ス可キ熟達ノ支那人一名ヲ用
ユ此「コム」プラド「ド」ハ自身ニテ為シ又ハ熟達ノ屬
員ト共ニ銀行ニ入ル處ノ「シエー」ヲ検査ス一「コム」
プラド「ド」ハ一月七十五乃至百五十丁銀ノ給料ヲ
受ケ五千丁銀ヨリ二万丁銀迄ノ保証金ヲ供ス其中
往々不信ノ事ヲ為シ銀行ヲ欺ム者有ルハ言迄モ
無キ事ナリ

斯ノ如ク不便ナル貨幣ヲ支那人ノ愛スルハ甚タ奇
ナル事ニ思ハルモ元來支那人ハ祖先ノ風習ニ最

凝着スルノ人民ナリ而シテ次節ニ於テ示ス如ク上
海ノ通用貨幣ニ於テハ一層奇異ノ者有リ余以為上
海ニテ日本貿易銀行ハル可キヤ否ノ至要ナル疑
案ハ此奇異ナル貨幣ニ付テ明瞭ニ至ル可シ
第十 前節ニモ云シ如ク僅々ノ取引ノ外ハ上海ニ
於テ通用セル貨幣無シ二三弗又ハ數セントノ物品
賣買ニ於テモ貨幣ヲ用ヒスコムプラトールカ銀ノ
碎切ヲ称リ之ヲ紙ニ包ミ表面ニ價ヲ記セル者ナリ
併シ上海中ニハ通用貨幣無シト雖モ内部トノ商業
ニ付テハ多量ノ賣買有リ毎年六七ノ頃外國人ハ
支那人ヨリ大ビニ茶絹ヲ買ヒ平衡ノ物品ヲ支那人
ニ賣ラサル時ハ商業ノ差引キ殘高ハ支那ニ落テテ
外國人ハ正金ヲ拂ハサルヲ得ス此ニ因テ外國人ハ

此差引殘高ヲ償フカ為メ洋銀又ハ墨西哥ヲ輸入シ
以テ諸拂ニ用ユ支那人此貨幣ヲ受ケ再々國ノ内部
ニ送リテ内部ヨリ回送セル絹茶ノ代價ヲ仕拂フ故
ニ弗ハ上海ノ市ニ於テ賣買ニ絹茶ノ代價ト為リテ
内部ニ入り此ニテ循環ス
絹茶ノ生産人ハ第一支那人ニテ第二其田舎人ナリ
前ニモ云如ク支那人ハ曰風習ニ凝着スル一實ニ驚
ク可ク就中田舎人ノ殊ニ甚シキハ各人ノ想像ニ得
ル處ナリ此等ノ人民ハ新規ノ諸物ニ信任心ヲ置ク
一甚ク遲々ノ一タヒ信スル時ハ變スル一モ亦遲シ
數ヶ年前迄ハ外國人賣買品ノ差引殘高ヲ償フニハ
皆カロラズドルヲ用ヒ之カ十五年前頃ヨリ墨西
弗ヲ以テ諸拂ノ媒介ト為セリ石貨幣ノ比較左ノ如

シ	カララス、ドルラ	重量	四一三、七六	純銀	八九六
	メキシコ、ドルラ	同	四一五、九五	同	九〇〇
	メキシコ、ドルラ		一〇〇〇ハ		一〇〇〇ノ日本銀同シ作ル可ク
	メキシコ、ドルラ		一〇〇〇ハ		銀同ヲ作ル可ク

其差十四即チ百分一
 他國ニテハ一般ノ好尚スル處墨西哥シ以テ第一ト
 ス然ルニ支那ノ人民ハ秀拔ナル墨西哥ヲ受ルヲ嫌
 ハリ故ニ墨西哥ノ始ノ上海ニ入りシ時ハカララス、
 ドルラノ割リ墨西哥ヨリ善キ一割乃至三割ナ
 リ此ハ十五乃至十八年以來ノ事ナリ故ニ支那人ノ
 其誤リヲ認ムルニ十分ノ時月有リテ今日ニ至リテ

ハ最早斯ノ如キ誤リ無ル可シト想像ス可ケレト左
 ニ非ス當月九日、上海ノ時價ヲ見ルニ
 カロラスドルラハ 八十 丁銀
 メキシコドルラハ 七十三十分、四銀
 即チカララスノ割ノ善キ一割九分
 近年カララスドルラ上海ニ輸入セサルニ因リ
 現在其貨幣ノ高價ハ全ク其不足ヨリ生ズル者ト想
 像スル人モ有ル可レト支那人ノ妄想ハ特リ「カラ
 ス、ドルラ」ニ限ラサル、確証多シ故ニ相當ナル利
 得ノ機會ヲ見テ上海ニ送ル可キ墨西哥ヲ横濱ニ於
 テ得ント欲スルハ殆ト難ニ支那人ノ喜フ處ノ非ハ
 某ノ年月ヲ歴テ某ノ形負ヲ顯サ、ル可ラス若モ年
 數形負其好ム處ニ適セサレハ貨幣ノ善惡ヲ問ハス

一分ヨリ三分位ノ割引キニ非サレハ買ハス
第十一此等ノ情實ニ據テ余カ立ニトスル處ノ議論
ハ甚々草ニメ且明カナリ支那人ハ旧貨幣ヲ愛シ假
令優品ナリト新貨幣ナレハ受ルテラ忌マハ如何ナ
ル道理ヨリメ吾人ハ後來ニ至リ日本貿易銀ノ支那
ニ入ルテラ企望ス可キヤ余カ是迄引証スル事實ヲ
見レハ後來ト雖ト日本貿易銀ハ北支那ニ於テハ割
引タラニテラ信スルニ至ラニ

第十二然レト又日本新貿易銀ハ墨西哥トカロラス
ドルラニ比スレハ二ノ利有リ

其一ハ重クメ其二ハ支那字ヲ負ヘリ

其一ニ於テハ吾人記ス可キヲ有リ即チ墨西哥ハ「カ
ロラス」ニ比スレハ重クメ純ナリト雖ト十五年ノ久

ヲ歴テ「カロラス」ノ割り尚善キ「九分」ノ打歩ヲ有セ
リ第二ニ於テハ多少ノ利有ル可シ然レ共其利ノ輕
重幾何カヲ知ラント欲セハ又實驗上ヨリ注意ス可
キ「有リ」數年前英國政府ニテ香港ニ造幣所ヲ置キ
支那字ヲ負フドルラニテ發行セリ然ルニ其貨幣ハ
支那人ノ好ハ處トナラス余カ知ル處ヲ以テスルニ
其貨幣ハ上海ニ於テ通用無シ故ニ全射ニ就テ之ヲ
見レハ吾人結局ノ論ハ左ノ如クナラサルヲ得ス即
チ後來至少ナリト數ヶ年間ハ日本ノ新貨貿易銀上
海ニ於テ行ハル可ラス

第十三 貿易銀ヲ輸入スルニハ第一國立銀行ハ至
當ノ者ナリヤ否ヲ思考セシカ為メ余カ今淺澤氏ノ申
立テト算用トテ短簡ニ檢閱ス可シ

定位銀貨ノ事ニ付テハ日本政府ハ紙幣九十五回ヲ以テ銀貨百回ニ替ヘサルト、趣余ハ一々年中上海ニ於テ銀貨ノ賣高果ニテ幾何ナルヤ預メ考察スル能ク利益ヲ得ルニ至ルヘシト思考ス

最初五年間銀行營業ノ結果概算洪澤氏ノ意見ヲ以テ設ケタル草案即左ノ如シ

一 四千貳百五拾三四

第一ヶ年目損失金

一 貳千百五拾三四

第二ヶ年目損失金

一 五拾三四

第三ヶ年目損失金

損失合計六千四百五十九回
一 貳千〇四拾六回

第四ヶ年目利益金

一 四千百四拾六回

第五ヶ年目利益金

利益合計六千百九拾貳回

五ヶ年間差引純益金貳百六拾七回

此預算ハ疑團最多キ者トス然レモ此ヲ以テ見ルキハ五年ノ後ニ至テモ尚政府ノ扶助ヲ仰クヲ示シタリ預算中利息ノ割合ハ年々増加スル都合ニシテ即チ第一ヶ年目七分第二ヶ年目九分第三ヶ年目壹割一分第四ヶ年目壹割三分第五ヶ年目壹割五分ニ當レモ決ニテカ、ル算法アルノ理十三而シテ上海

大 歳 省

ニ於テ利息ノ割合ハ僅ニ平均九分又ハ毫割一分ト
ス固ヨリ銀行事務ノ實際ハ如何ニ有ル歟ヲ預メ論
辨スルハ實ニ難キナレモ余モ自ラ草案兩件ヲ設
ケ以テ閣下ノ覽閱ニ供ス其一ハ第一ケ年目ノ預算
ニシテ他ハ第二ケ年目ヨリ後年ノ預算ナリ即此兩
件ハ毎年定位銀貨拾五万圓ノ取扱ヲ除キ政府ヨリ
借受タル資本定額中ニテ取扱フ處ノ銀行事務ヲ限
リタル概算ナリ
此資本定額ニ依リ第一ケ年ノ利息ヲ九分ト見做シ
第二ケ年目以下ヲ毫割毫分ト見做シテ其損益ノ割
合概算左ノ如シ
一八千貳百九拾九圓
第一ケ年目損失金

一五千四百四拾七圓
第二ケ年目以下利益金
此概算ニ據レハ損失ノ豫備ヲ充分設ケ置クトモ漢
澤氏ノ預算ヨリハ多分ニ利益ヲ得ヘキナリ尤利益
ノ多寡ハ上海ニ於テ定位銀貨流通ノ多少ニ從フ者ト
知ル可シ且又其ノ經驗五年ノ終ニ至リ支店ノ獨立
スヘキ哉否ハ實ニ測リ難シ隨テ支店ヲ設立シタル
目途即日本貿易銀ノ專ラ流通ヲ擴伸スルノ目途果
シテ立ツヘキヤ否モ亦々測リ難シトス
初メ運送シタル貿易銀額ノ代價充分ニ低價ヲ以テ
スル片ハ疑ヲ不容支那人ノ為ニ流通ヲ得ヘシ然レ
モ其相場落墮スルニ從テ其ノ貿易銀ヲ以テ多分支
那銀ニ鑄造ニ而シテ貿易銀ノ流通ヲ廢止スルニ至

ル可レ方今墨西哥ハ丁銀七十三分ノ四ノ相場ナ
レ氏若シ七十セニ落墮スル丁アル片ハ果シテ斯ク
ノ景況ト成ルヘシト想像ス

初回貿易銀ノ賣レタル後ハ多分何レノ時ニテモ損
失無シニ多クノ金額ヲ賣ル可キ好機會アラサレ可
シ譬へ前文ニ記認シタル如ク紙幣ノ相場百〇三四
若シクハ四四ニ落墮スル片ニ第一國立銀行ノ紙
幣百〇志四ニ付キ貿易銀百四ヲ受得シテ利益ヲ得
ルト雖モ上海往返ノ運賃及ビ保險料ヲ掃テ可キヲ
以テ實際上ニテハ遂ニ損失ハ日本國ニ歸ス可シ
之ヲ總論スルニ上海ニ於テ支店設立ハ決シテ冀望
スル處ノ結果ヲ見ルヘカラサル者ト思考ス然リト
雖モ好機會ニテ支那へ貨幣ヲ運送シ其貨幣ニテ自

然支那人ノ馴レ來ルニ依テハ利益ヲ為シ得ル丁有
ルヘシ譬へ斯ク成ラサルトモ支那人ノ平常頑固ノ
習慣ニ及ビテ競テ銀ヲ好テ請ク可キノ志情ヲ生
スル丁有ルヘシ昔日「カ」ラ「ス」銀ノ景況ニテモ斯ク
ノ如ク有リシ而シテ日本銀ノ景況ニテモ亦々斯
ク有ルキハ本國及ビ銀行ノ利益ト成ルニ論ヲ待タ
サルナリ此原由ニ於テ其實際施行ハ僅ノ入費ニテ
大モニ得ル丁アルヘシ故ニ銀行ノ事務ヲ開始スル
ヲ善シト想像ス去レ氏其ノ實功ノ成不成ハ未タ知
ラサルヲ復言セサルヲ得ス

第十四 支店設置ノ決議アラハ其設方、扱方及計
算等ニ付キ余ハ權限ニテ各事ニ補助ヲ申述スヘキ
ハ幸ヒナリ可シトス

大
裁
省

第十五 定款中銀行營業ノ一部分トシテ外國へ支
店ヲ設立スルトヲ記載為サレハ其定款ヲ改正ス
可キタノ株主ノ集會ヲ設クルトアルヲ欲ス歐洲各
國ニ於テ支店ヲ設立スルトニ付株主ノ承諾ヲ得ス
レテ定款外ノトシ成スハ不條理トス又定款中言外
ノ意味アル如キハ此レ亦不條理ノモノトス
第十六 支那へ新貿易銀ヲ流通セシムルニ付キ聊一
ニ言添記ス其銀回ヲ多分適宜トシテ受用スルノ地
ハ必ズ香港ナルヘシ香港ハ上海ト異リ弗銀アリ且
其近隣新埠「マ」一「十」二廣東「福」州「厦」門等ノ如キモ鄰
邦銀アリ
故ニ香港ニ於テハ毫モ逼迫強壓ヲ用ニルトナク通
例ノ交易ニヨリ貿易銀ヲシテ流通セシムルト得

ヘシ去リナガラ此地在來ノ銀行ニ就キ其助力ヲ得
ルヲ以テ上策トス若シ一旦此地ニ行ハル、ト遂ニ
前ニ掲ケタル各地ニモ追々流通スル日ヲ期シテ待
ヘモナリ然ルヲ一先ノ弗銀ヲ流通セス惟弗銀ノ交
換アルノニシテ其共ニ高アル所ノ人民ハ無知偏
見ナルノ上海ニ於テ貿易銀ノ流通ヲ欲スル如キハ
乃チ一ノ誤謬ニシテ吾輩ノ決シテ得策トセサル所
ナリ

第一國立銀行上海支店營業意匠草案

第一ヶ年

一貿易銀額拾貳万円

紙幣 = 三

拾貳万千貳百圓

但し貿易銀百圓 = 付き紙幣百圓志圓替

一定位銀貨八万圓

紙幣 = 三

七万六千圓

但銀錢百圓 = 付き紙幣九拾五圓替

合計貳拾万圓

紙幣合計拾六万七千貳百圓

一貿易銀拾貳万円

内引

千四

但貳拾万四、運送船賃及保險料五分ニテ
残り

拾壹万九千四

定位銀貨八万四

合計拾九万九千四

但上海へ運送金額額

了銀ニシテ

拾四万三千貳百八拾ヲ一ル

但日本銀百四ニ付七拾貳ヲ一ル替

内譯

拾貳万ヲ一ル

但貸付銀

利息

壹万〇八百ヲ一ル

但毎年九分ノ割合

貿易銀ニシテ

壹万五千三百四

但七拾貳ヲ一ルニ付キ百四替

一拾四万三千貳百八拾ヲ一ル

弗銀ニシテ

拾九万九千四

但七拾貳ヲ一ルニ付キ百四替ニシテ即チ横濱へ

返送銀額額

紙幣ニシテ

貳拾万。九百九十四

但銀百圓ニ付キ紙幣百。壹圓替

内譯

拾九万七千貳百圓

但政府ヨリノ借金

残り

三千七百九拾圓

内引

九百九拾五圓

但五分ノ船賃及保險料

残り

貳万七千九拾五圓

壹万五千三百圓

但前記載ニタル拾貳万テール貨附銀ノ利息
合計壹万八千。九拾五圓

内引

貳万六千三百九拾四圓

但諸入費

不足高八千貳百九拾九圓

諸入費

一 三千六百テール

家屋借料毎月三百テール宛ニシテ志年分

一 壹千八百テール

土藏三ヶ所借料毎月百五十テール宛ニシテ志年

分

税金

一 三百六十テール

毎月三十テールノ税金

月給

一 貳千四百テール

支配人志名月給毎月貳百テール宛ニシテ志年分

一 壹千四百四拾テール

計算方一名月給百貳拾テール

一九百六拾テール

計算助役一名月給八拾テール

一六百テール

主簿役一名月給五拾テール

一六百テール

金銀預り方一名月給五拾テール

一四八拾テール

書記方一名月給

一四八拾テール

通辨役一名月給四拾テール

一九百六拾テール

金銀検査方長一名月給八拾テール

一三百六拾テール

金銀検査方支那人二名月給三拾テール

一百貳拾テール

小使一名月給拾テール

一九拾六テール

門番并藏番人月給八テール

一貳百四拾テール

使役二名月給貳拾テール

合計八千七百三拾六テール

一三百六拾テール

家僕等入費毎月三拾テール

一六百テール

紙筆墨代郵便賃極印手敷料電報等入費毎月五拾

大歳省

テール

一千八百テール

饗應并ニ會食諸料毎月百五拾テール

一百六拾テール

木炭石油石炭代價毎月三拾テール

一百五拾テール

家屋修覆并旅費

一百四拾テール

家財ノ減價

一百テール

新聞紙等代價

一百四拾テール

雜入費

總合計壹万八千八百拾六テール

紙幣ニシテ

貳万六千三百九拾四圓

但七拾貳テールニ付キ百〇壹圓替

第一國立銀行上海支店營業^{ツモリ}意^ニ草^案

第二ヶ年

一拾四万三千貳百八拾^テル

但貸付銀額

利息

壹万五千七百六拾^テル

但壹割^分ニ^シテ

紙幣ニ^シテ

貳万貳千百〇六^四

但七拾貳^テルニ^付キ百〇^壹口替

一銀錢拾^五万^四

紙幣ニ^シテ

拾^四万^貳千^五百^四

但紙幣九拾五圓ニ付キ銀百圓替
一銀拾五圓

但上海へ運送額

内引

七百五拾圓

但五分ノ船賃并保險料

残り

拾四万九千貳百五拾圓

丁銀ニシテ

拾万七千四百六拾テール

但百圓ニ付キ七拾貳テール替

又銀錢ニシテ

拾四万九千貳百五拾圓

但百圓ニ付キ七拾貳テール替

紙幣ニシテ

拾五万貳千貳百三拾五圓

但百圓ニ付ニ分替ニテ拾四万九千貳百五拾圓ノ

賣リ代價

内引

拾四万貳千五拾圓

但元金

残り

九千七百三拾五圓

貳万貳千百〇六圓

但前記載シタル拾四万三千貳百八拾テール

利息

合計三万千八百四拾壹圓

内引

貳万六千三百九拾四圓

但諸入費

残り利益

五千四百四拾七圓